

# 第84期 中間株主通信

平成25年4月1日から平成25年9月30日まで



Produce  
The Future



株式会社 GSIクレオス

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

平成25年10月1日付で、代表取締役社長に就任いたしました中島浩二でございます。

当社は、第84期中間期（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）の営業を終了いたしましたので、ここに営業の概況と決算をご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年12月

代表取締役社長

中島浩二



## 第84期中間期の業績

当中間期におけるわが国経済は、現政権の政策により景気が緩やかに回復しつつあるものの、欧州景気の回復遅れや新興国経済の減速など海外景気に下振れ懸念があることから、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況下、当中間期の業績は、引き続き海外売上高が増加しましたので、売上高は前年同期比14,758百万円、24.0%増収の76,212百万円となりました。売上総利益は、前年同期比384百万円、5.8%増益の6,960百万円となり、営業利益は、前年同期比79百万円、9.6%増益の915百万円となりました。経常利益は、為替差損の発生など営業外収支

が悪化したことから、前年同期比82百万円、10.9%減益の675百万円となり、中間純利益は前年同期比147百万円、23.9%減益の470百万円となりました。

### 第84期中間期業績

売上高	76,212百万円	前年同期比	24.0%
営業利益	915百万円	前年同期比	9.6%
経常利益	675百万円	前年同期比	△ 10.9%
中間純利益	470百万円	前年同期比	△ 23.9%

## 通期の見通し

下半期の経営環境につきましては、わが国経済は、円安による輸出企業の収益改善や消費増税前の駆け込み需要が見込まれるものの、本格的な回復には輸入コストの上昇など不安要素があることや、世界経済においても、新興国経済の減速懸念が依然として払拭されず、先行き不透明な状況が続くものと思われまます。

こうした状況下、当社グループは、海外売上高の拡大と収益性の向上を重点施策として、強みの発揮できる事業分野へ経営資源を傾斜配分し、収益基盤の強化と財務体質の改善に取り組んでまいります。

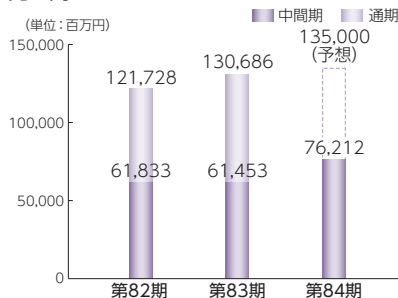
なお、ナノテクノロジー事業は、塗料、複合材料、燃料電池の3分野に絞り込み経営資源を投入するとの方針のもと、プラント・橋梁等への市場参入を図るべく、商品化を実現した高機能塗料「ナノテクト®」を世界最大級の石油・ガス・エネルギー展に出展するなど、事業化を促進しています。

### 第84期通期見通し

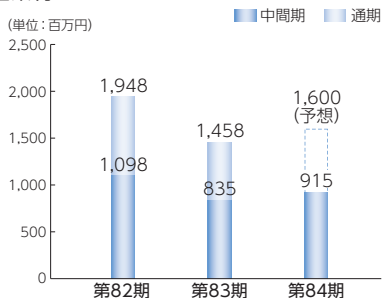
売上高	135,000百万円
営業利益	1,600百万円
経常利益	1,400百万円
当期純利益	1,000百万円

## 業績の推移(連結)

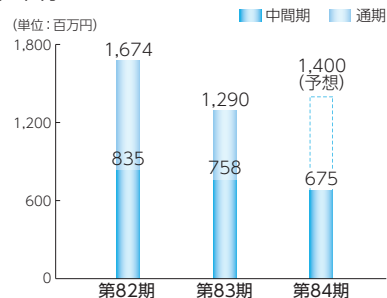
### 売上高



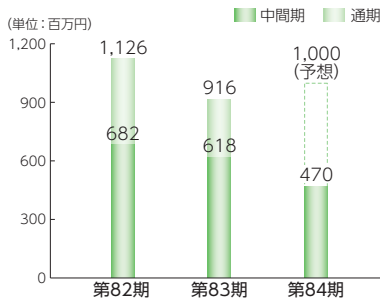
### 営業利益



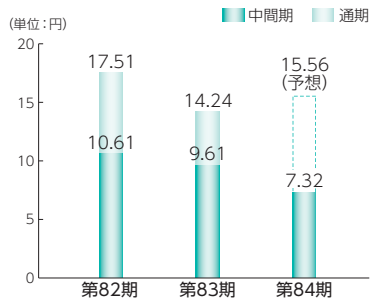
### 経常利益



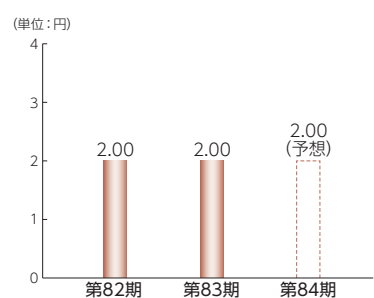
### 当期純利益



### 1株当たり当期純利益



### 配当金



## セグメント別概況

### 繊維事業

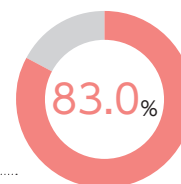
#### 主要商品：

繊維原料、テキスタイル、  
レッグ・インナー・  
アウターウェア 他

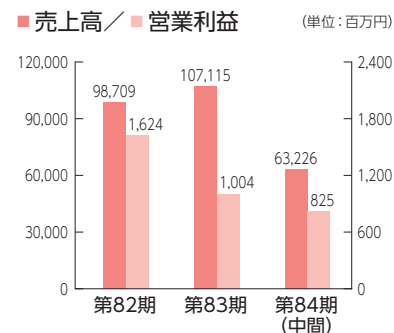


売上高	63,226百万円	
	前年同期比	26.2%
営業利益	825百万円	
	前年同期比	44.7%

#### 売上構成比



- 機能性の高いインナー用の原糸および生地は、取扱数量が大幅に増加しました。企画提案型の婦人ファンデーションは、円安等による生産コストの上昇により採算が悪化しました。インナー製品のOEM取引は、同様の採算悪化に加えて販売数量も減少し、量販店向けの実用衣料は、紳士肌着の販売が落ち込みました。また、雑貨の小売展開は、販売が伸び悩み苦戦しました。
- アウター用の生地輸出は、欧米やアジア向けが増加するとともに、円安により採算が好転しました。また、アウター製品のOEM取引もレディースやアウトドア向けが伸びました。



### 工業製品事業

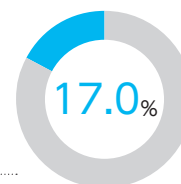
#### 主要商品：

化学品、機械装置・資材、  
ホビー・生活関連品 他

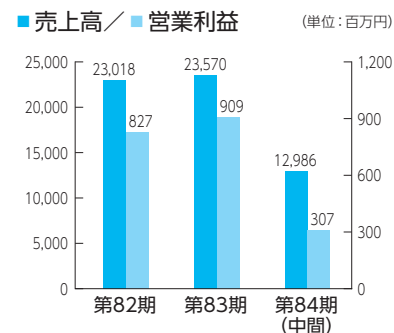


売上高	12,986百万円	
	前年同期比	14.5%
営業利益	307百万円	
	前年同期比	△ 34.7%

#### 売上構成比



- 塗料・樹脂の硬化用添加剤は、欧米やアジア向けの輸出が増加しました。機械は、大型複合材成形機の取り扱いがあり増加しました。一方、フィルムは、飲料・食品用包材の需要低下により高機能収縮フィルムを中心に減少しました。半導体の部材、理化学機器や化粧品原料などの輸入品は、円安の影響により利益率が低下しました。
- ホビー関連商品は、塗装用器具が減少しました。



## 中国・浙江省に新拠点を設立 —靴下用原糸事業の強化に向けて—

当社は、中国における靴下用原糸事業を強化するため、現地法人であるGSI北京社の分公司を浙江省・平湖に設立し、本年4月より営業を開始しました。

これまで、当社は、靴下用原糸を北京地区にて取り扱ってまいりましたが、靴下の主産地である浙江省に拠点を設け、紡績・染色加工から加工糸の販売までを一貫して行うことで、産地に密着した糸商として、よりきめ細かなサービスを提供できるようになりました。

今後は、販路拡大に取り組むことはもちろんのこと、当社でこれまで培ってきた原料の調達力やノウハウを新拠点の機能と融合させることで、原糸のみならず製品分野においても靴下事業の拡大を図ってまいります。

### 新拠点（分公司）の概要

名称	北京科立欧思商貿有限公司平湖分公司（GSI北京社平湖分公司）
所在地	中国浙江省嘉興市平湖經濟開發区城西路888号



新拠点で取り扱う染色加工糸と提案用サンプル

## ミャンマーにおいて婦人服生産を開始 —アウターOEM事業におけるコストダウンへの挑戦—

当社は、東南アジアにおける生産拠点の確保に努めており、その一環として、婦人服のOEM事業において、最近注目されているミャンマーで有力縫製工場（3ヶ所）を生産委託先に選定し、本年6月より本格的な生産（ダウンジャケット）を開始しました。



当社が生産を委託しているミャンマー縫製工場の様子

ミャンマーは、2011年に民主化されたばかりで、港湾や道路等のインフラが整っていないといった面があるものの、人件費をはじめとする製造コストは低く、他の東南アジア諸国と比較しても、価格競争力という点で優位性があります。また、過去から欧米向け縫製製品の生産を行っていた実績により、良質で豊富な労働力を容易に確保できることが大きな魅力となっています。

今後は、さらにコストダウンを図るべく、現在は中国等から調達している生地や資材を、東南アジア内で調達できる仕組みを構築し、生産アイテムも増やしてまいります。

## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期	前期	
	平成25年9月30日現在	平成25年3月31日現在	
資産の部	流動資産	56,002	48,283
	固定資産	11,578	11,623
	有形固定資産	5,423	5,446
	無形固定資産	531	553
	投資その他の資産	5,624	5,624
<b>資産合計</b>	<b>67,581</b>	<b>59,906</b>	
負債の部	流動負債	49,732	42,727
	固定負債	3,812	4,178
<b>負債合計</b>	<b>53,545</b>	<b>46,906</b>	
純資産の部	株主資本	14,240	13,903
	その他の包括利益累計額	△254	△952
	少数株主持分	50	49
<b>純資産合計</b>	<b>14,036</b>	<b>13,000</b>	
<b>負債純資産合計</b>	<b>67,581</b>	<b>59,906</b>	

### 当社ホームページ(IR情報ページ)のご案内

当社ホームページのIR情報のページでは、決算短信や有価証券報告書等のIR情報をご覧いただけます。より詳細な情報については、以下のアドレスにアクセスくださいますようお願いいたします。

<http://www.gsi.co.jp/ir/>

### 連結貸借対照表(要旨)のポイント

#### 資産

売上債権の増加等により、前期末比7,675百万円の増加

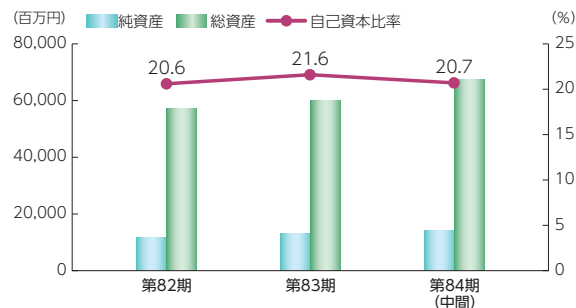
#### 負債

仕入債務の増加等により、前期末比6,638百万円の増加

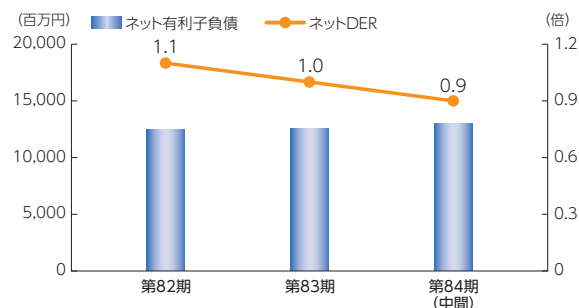
#### 純資産

中間純利益による株主資本の増加およびその他の包括利益累計額の増加等により、前期末比1,036百万円の増加

### 純資産(百万円)／総資産(百万円)／自己資本比率(%)



### ネット有利子負債(百万円)／ネットDER(倍)





## 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

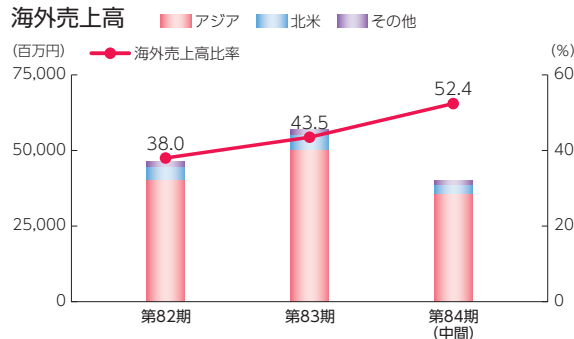
科目	当中間期	前中間期
	平成25年4月1日～ 平成25年9月30日	平成24年4月1日～ 平成24年9月30日
売上高	76,212	61,453
売上原価	69,251	54,877
売上総利益	6,960	6,575
販売費及び一般管理費	6,044	5,739
営業利益	915	835
営業外収益	106	200
営業外費用	346	278
経常利益	675	758
特別利益	3	19
特別損失	64	0
税金等調整前中間純利益	614	776
法人税等合計	143	157
少数株主利益	0	0
中間純利益	470	618

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

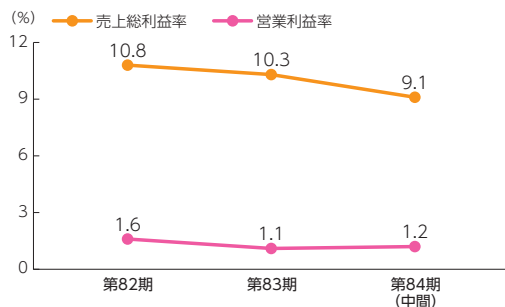
(単位:百万円)

科目	当中間期	前中間期
	平成25年4月1日～ 平成25年9月30日	平成24年4月1日～ 平成24年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	△433	187
投資活動による キャッシュ・フロー	△39	△329
財務活動による キャッシュ・フロー	117	△925
現金及び現金同等物の 中間期末残高	7,928	7,430

## 海外売上高



## 売上総利益率(%) / 営業利益率(%)



## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)のポイント

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権の増加等により、433百万円の減少

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

出資金の払込による支出等により、39百万円の減少

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

借入による収入等により、117百万円の増加

## 会社概要

### 会社の概要 (平成25年9月30日現在)

会社名	株式会社GSIクレオス		
本社	東京都千代田区九段南二丁目3番1号		
設立	1931年10月31日		
資本金	71億86百万円		
従業員数	597名(連結)		
拠点	国内 8ヶ所	海外	15ヶ所
連結子会社	国内 7社	海外	6社
ホームページ	<a href="http://www.gsi.co.jp/">http://www.gsi.co.jp/</a>		

### 株式の状況 (平成25年9月30日現在)

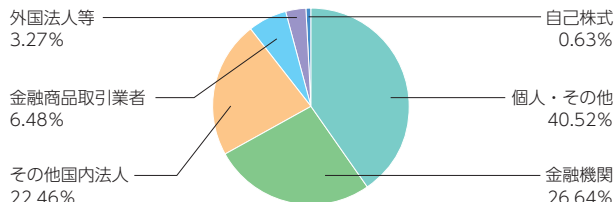
発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	64,649,715株 (自己株式404,311株を含む)
株主数	6,598名

#### 大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
グンゼ株式会社	9,321	14.51
株式会社みずほ銀行	3,182	4.95
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,172	4.94
日本生命保険相互会社	2,520	3.92
東レ株式会社	1,982	3.09
日本証券金融株式会社	1,870	2.91
日本興亜損害保険株式会社	1,119	1.74
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,046	1.63
松井証券株式会社	906	1.41
株式会社SBI証券	822	1.28

(注) 持株比率については、自己株式(404,311株)を控除して算出し、小数点以下第3位を四捨五入して表示しております。

#### 株主構成(所有者別株式数の割合)



### 役員 (平成25年10月1日現在)

代表取締役 取締役社長	中島 浩二	取締役 取締役	荒木 靖司
常務取締役	宮崎 満	取締役 取締役	富田 正憲
常務取締役	松下 康彦	取締役 取締役	新美 一夫
常務取締役	吉永 直明	常勤監査役	浅野 幹雄
取締役	田中 正道	監査役	石川 均
取締役	中山 正輝	社外監査役	岩田 紀治
		社外監査役	金井 博芳

### 株主メモ

証券コード 8101

上場証券取引所 東京

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

期末配当金  
受領株主確定日 3月31日

単元株式数 1,000株

株主名簿管理人  
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
TEL: 0120-232-711 (通話料無料)

公告の方法 電子公告

当社のホームページに掲載いたします。  
公告掲載アドレス <http://www.gsi.co.jp/ir/notice/>  
(ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

